

「NIIGATA光のページェント！」にご協賛を！

駅南「けやき通り」の風物詩「NIIGATA光のページェント」が今年も始まります。


点灯式は12月7日(金)の17時から。ゴスペルライブやウエディング、小学生と専門学校のコラボスイーツや、トン汁、綿菓子、ホットワインの屋台など、楽しい企画満載です。点灯は18時30分頃から。感動の瞬間を一度見に来ませんか？



さて、実は新潟市からの補助金が減額になり、大変厳しい台所事情なのです。ご協賛(個人3,000円、企業10,000円)いただける方は、(株)ココキの横木(光のページェント実行委員長)までご連絡下さい！

(点灯期間: 12月7日～1月31日
点灯時間: 17時～24時30分)

「Eco列車でいこう！」～第112回～ アルプスの女王！

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！) 

9月22日の夕方、クルマで新潟を出発し長野県安曇野市へ向かった。糸魚川で高速を降りて、国道148号を走り、日付が変わる頃、標高1400mの中房温泉登山口に到着。狭い駐車場はすでに満車である。隙間を見つけて、なんとか駐車。しばし仮眠をとった。

翌朝。快晴だ。気持ちのいい青空、沢のせせらぎ、鳥の声。「やっぱり山はいいな。」と思う。それにしても登山者が多い。6時30分に登山道が始めるが、最初は登山道が渋滞して、ゆっくりしか歩けない。

徐々に渋滞が解消される。ブナの樹林帯をドンドン上り、途中のベンチでお湯を沸かして、おにぎりとお味噌汁の朝食。登山開始から2時間ちょっとで、標高2350mの合戦小屋に到着。「山小屋」はオアシスだ。みな思い思いに休憩している。

アルプス3大急登の一つ「合戦尾根」を進む。太ももが悲鳴を上げるが、座るとダメージが大きいので、立ち休憩を繰り返す。紅葉の鮮やかさが背中を押してくれて、午前10時、山頂直下の山小屋「燕山(えんざん)荘」に到着。険しいアルプスの山容。青空。紅葉。色鮮やかな絶景だ。遠くには名峰「槍ヶ岳」も見え、疲れも吹っ飛んだ。

リュックをデポして(山小屋に置いて)、山頂を目指す。身軽になったので、足も軽い。約30分でアルプスの女王「燕岳(つばくろだけ)」(標高2763m)に到着した。

燕山荘に戻り、昼食タイム。この山小屋では、本格的な料理が楽しめる。「ビーフシチューセット」(1200円)を頼むと、やわらかく煮込んだ牛肉がゴロゴロ入っている。山上のレストラン。最高の気分だ。

今晚山小屋に泊まる人々は、昼から生ビールを飲んでいる。「うらやましいなあ。」と思いながら、下山を開始。途中、遠くに富士山を望む。午後3時には、登山口まで降りてきた。

その夜は、白馬村に宿泊した。この村の人口は約9000人だが、夏の山岳観光、冬のスキーに魅せられて、外国人の延べ宿泊者数は年間11万人にのぼり、約600人の外国人が移住している。

オーストラリア人が経営しているパブで、ビールとマルゲリータピザ、大きなチキンを楽しむ。山のあとのビールはうまい。カウンターにいる外国人の会話を聞いていると、酔いが回っているのもあり、海外にいるような錯覚に陥った。

